

論文

日本語オノマトペの中国語訳の類型

(社説・評論 編)

張 新 力

要 旨

オノマトペは音や声を真似た擬音語と状態を真似た擬態語の総称である。日本人の日常生活の中、また文学作品、特に児童向けの書物の中にオノマトペが大量に使われている。日本語オノマトペは文章の中で、副詞、動詞、形容詞などとして活躍しているし、また、促音や濁点を入れることによって程度を強めたりする使い方もある。さらに、アクセントを変えるだけで意味も変わることもある(例えば「ガタガタ」)。外国人から見て、日本人は誰でも任意にオノマトペを作ることができるような印象さえ持っている。(例えば「(目が)ウルウルになった」)。日本人が感覚で使っているオノマトペは外国の日本語学習者にとってつかみにくいものである。

中国語にもオノマトペが存在している。けれども、漢字で表現しにくい音声、状態が多いため、数的には日本語ほど多くない。そして、その使用は子供じみていて、文化的レベルが低いと思われるため、書物にはもちろんのこと、大人の会話にさえ使用を避けている傾向がある。中国人は日本語のオノマトペに出会ったとき、適切な訳が見つからず躓いてしまうことが多い。小論は擬態語を中心に、新聞の社説、論評、コラム、評論などからオノマトペを使った文を集め、それらを翻訳することによって、日本語オノマトペを中国語に訳すときの規則性と注意点を探ってみた。紙幅の制限により、今回は6項目にとどめさせていただく。

- 一、中国語の擬態語に
- 二、擬音語から転じた擬態語の意識
- 三、同語異訳
- 四、異語同（類語）訳
- 五、四字熟語に
- 六、文脈から意識

キーワード：日本語、オノマトペ、中国語、擬態語、意識、翻訳、パターン

オノマトペは物事の状態、人間の心情や動き、声や音などをできるだけ直感的に表わす言葉で、日本語の中に大量に存在している。オノマトペは子供向けの読み物や小説などによく使われていることに注目されている。逆にいえば、日本人は幼い頃からオノマトペを日常や書物から大量に接してきたため、改めて勉強する必要のない、感覚的なものになっていると言えよう。しかし、こういった環境の中で培われた感覚、その感覚を表わすオノマトペこそが外国人にとってはもっとも把握しにくいものである。

中国語の中にもオノマトペが存在している。しかし、その多くは口語表現にとどまり、子供向けの書物に擬音語が時たまあるものの、動作や心情を表わす擬態語がほとんど見当たらない。なぜなら、中国は方言が多く、地域ごとにそれなりのオノマトペがあっても、日本のような普遍的に使われるものが少ない。また、口語表現に使われていても、それをどういった漢字を書くべきかが分からない場合が多いからである。それに、中国ではオノマトペの使用に対して幼なさのほかに、文化的教養が低いと思われる傾向があって、むしろ使用を避けているのである。

しかし、日本語学習者のほとんどが、日本人と会話する機会や日本語の新聞や書物に接する機会の増加により、オノマトペほど直接かつ適切にその場の雰囲気、感覚を伝えるものはないと気づき、それを中国語に訳そうとしてもすぐに適切な言葉が見つからず苦労した経験を持っている。とくに、通訳を務めるとき、日本側はあることを婉曲で適切に、場合によってはユーモラスに表現しようとしたのに、すぐに訳語が見つからず、その場の雰囲気をうまく伝えられないこともあった。

日中間の政治経済活動が頻繁になり、重要な場面で双方の意思を正確かつ適切に伝え、物事を順調に進めるにはオノマトペを訳すテクニックをまとめることは単なる語学研究ではなく、現実的な意味を持つようになってきていると思う。

日本語のオノマトペの研究が増えている中、ほとんどの研究は日常会話、児童文学、小

説などに使われていることに着目している。実際は新聞の社説や論評，時事評論などにもよく見かけ，政治家の国会弁論にも出ている。こういった類の文章に表れたオノマトペは小説のそれより訳しにくい場合が多い。オノマトペは感覚を伝える意味合いの強い言葉なので，小説の中では文脈でなんとなく理解できても，社説や評論など概括性の強い文章に使われたものはそう簡単にはいかない。場合により，辞書に載っていないか，載っていても説明がその文章に合わなかったりすることさえある。そこで，日本語のオノマトペを中国語に訳す規則的なもの，テクニックがあればと思うようになり，例文を集め始めたのである。

オノマトペは擬音語，擬態語に分かれている。擬音語に関しては国によって違い，丸暗記の分野に入っていると思う。しかし，日本語の擬態語は動詞にも形容詞にも副詞にも使われ，そして，促音や濁音を入れることによって程度を強めたりすることのできる複雑なものであるため，小論は主に擬態語を取り上げ，翻訳する方法について考察してみようと考えている。そして，翻訳に使われた例文は新聞（主に『毎日新聞』）の社説，論評，評論，コラムから擬態語を使った句を集めたもので，それらを中国語に訳し，規則性と注意点を探してみる。

一、中国語の擬態語に

1 高齢者のシンボルだからといって，敬老や感謝の気持ちがこもったものばかりとは限らない。ましてそれ（紅葉マーク）をいつもつけていないと罰するぞと言われれば，「何たる無礼」との反発がむらむらとわき上がるのは誰にも分かる心の動きだ。（毎日新聞 08, 12, 26 余録）

訳：说是老年人的标记，它并不一定含有尊敬和感谢。况且不随时贴上它（枫叶标致）还要罚款的话，谁都会觉得「太不尊敬人了」，谁都会一股股怒气涌上心头。

「股」は気体，水の流れを数える量詞で，心の底から沸き起こった悲しみや怒りを修飾する時に良く使われる。「一股股」を省略しても意味が変わらないが，それを使うことによって，怒りは徐々にわき起こり，しばらく続いている様子が伺える。

2 自民党の基盤が弱まったところで大きなリーダーシップが求められる問題が噴出したが，自民党はますますグジュグジュになり，大きなものをまとまていくという期待がもてない。……理由は明快だ。第一に，自民党内バラバラ。（毎日新聞 09, 2, 2 風知草「心が痛まない公共事業」）

訳：由于自民党的基础减弱，涌现出的大量问题需要有更大的决断能力（才能解决）。自

民党却越来越乱 or 乱糟糟，不能期待他们作出什么重大决断。……原因很明显。第一就是自民党内部不统一 or 分裂。

何冊かのオノマトペ辞書を調べたが、「グジュグジュ」が載っているのは一冊だけで、そこには「涙や鼻水でひどく濡れている様子」と説明している。中国語にはそれに当たる擬態語がいくつか見当たる。「泪汪汪」、「鼻涕乎乎」がぴったりする訳だと思うが、この文においてはどれも使えない。しかし、そのさっぱりしない状態から「乱糟糟」という擬態語が思い出させられる。「糟糟」はすでにある状態に達している様なので、「ますます」（「越来越」）と一緒に使うときこちない文になるから省いたほうがよい。つまり「越来越」を使うなら「糟糟」を省き、「糟糟」を使うなら「越来越」を省略する二通りの訳になる。

また「バラバラ」に当たる擬態語は「零零碎碎」「零七八落」があり、いずれもものものまもらない様子を言っている。政党内の意見の不一致や人心が離れていくには使わない。

3 社会保障や教育や環境が大事だというメッセージはちまたにあふれている。だが、チマチマした対策は生まれても大きな動きがでない。(毎日新聞 08, 12, 29 風知草「天罰に隠れている天啓」)

訳：社会保障や教育、環境什么的都很重要，这样的话随处都能听到。可是，就算制定了一些零零碎碎的对策也没有什么大举动。

「チマチマ」に似た中国語の擬態語には「零零碎碎」・「零星」・「一点点」などがある。この文においてはどれを使っても意味が通じる。ただ、「零零碎碎」・「零星」を使う場合、前に複数を表わす「一些」を付け加えるのが一般的である。

4 いくつかの新聞は長い歴史に幕を閉じ、別の新聞はひっそりとインターネット新聞に移行した。(毎日新聞 09, 12, 19 「悲しいジャーナリズムの死」)

訳：几家大报给其悠久的历史拉下了帷幕，其他报纸悄然改换门面转向网络报刊。

「悄悄地」と「悄然」のどれを選ぶかに迷うかもしれない。どれもいいようだが、前者は口語表現に多く、論説文には「悄然」が全体の雰囲気合う。

5 原田さんはバリバリの主流派経済学論客だ。(毎日新聞 09, 11, 29 千波万波「バラマキはいいのだ」)

訳：原田是响应当的主流派经济学论客。

「响应当」はものを叩いて鳴り響く様ではあるが、そこから転じて、ある分野で有能で、有名で頼もしい人のことを修飾する時に使う擬態語になっている。

日本語オノマトペの中国語訳の種類

6 長時間、人とカメラとラクダを太陽の炎熱にジリジリ焼き続けながら撮るのである。(毎日新聞 09, 1, 7 記者の目)

訳：人、相机、骆驼长时间地顶着太阳火辣辣的照射，不停地拍摄。

「辣」は本来味覚で「辛い」という意味である。「火辣辣」は灼熱の太陽にあたり、火に焼かれた痛い感じを言う擬態語である。

7 山の急斜面を、小さな建造物がぎっしりと覆い尽くしているのだ。(毎日新聞 10, 1, 24 時代の風「刻々と被害伝える写真群」)

訳：山坡上小房屋密密麻麻的一片。

「密密麻麻」は隙間なくびっしりしている様で、とくに細かいものが固まっている様子に使われる。山の斜面に対して「小屋」はまさに細かいものであり、ぴったりする擬態語だと思う。

8 関係業界ごとに仕切られていた戦後日本の縦割り行政の起源は戦時生産体制と言われる。そんな生産優先の縄張りによってばらばらに分断されていたのが消費者の利益だ。(毎日新聞 08, 2, 14 余録)

訳：把日本各个行业独立分开的战后纵向行政体制，据说起源于战时生产体制。被这种生产优先的圈绳定界行政搞得七零八落的是消费者的利益。

中国語の擬態語には数字の「七」「八」を使うものが多い。たとえば「どきどき」のことを心が「七上八下」と言う。「七零八落」から物事が一つにまとまっていない様子が浮かぶだろう。

上記の例の他に、中国語にぴったりする擬態語があっても使えず、言葉を換えなければならぬ例もある。

9 今の世間を動かす中心には気力、迫力のようなものが欠けているようにおもえる。あっさりとスマートでもの判りが良すぎる。マスメディアの伝えるまま、すべて鵜呑み、その上でぼーっとしている。(毎日新聞 09, 12, 12 P13「成長神話から脱却を」)

訳：我觉得，如今推动社会的主要力量中缺少类似干劲、魄力那样的东西。过于简单地不加思索地理解事物。媒体怎么宣传就怎么接受，并安坐其上。

日中辞典に「あっさり」を「简单地」と説明している。この文においてはそのまま使っても違和感がない。しかし、「ぼーっとする」の訳はそう簡単には行かない。「ぼーっとする」という言葉のイメージが、たとえ擬態語にあまり慣れていない日本語の初心者でも分かりやすい言葉の一つである。中国語にはそれにぴったりする表現—「呆呆地」，「发呆地」が

あり、日常的によく使われている。上記の論説にそのまま使うと、文章語と口語の混合が生じ、文体が一致しなくなる。「安坐」とは「1 気楽にすわる、2 何もせずにいる」と辞書にある。言うまでもなく2の意味は「ぼーっとする」にぴったりする。「あっさり」を「简单地」、「ぼーっとする」を「安坐」と訳し、文章としてスマートになったが、なんとなく、日本語の雰囲気が十分に訳しだせないような気がしてならない。

10 冷笑的な政治にうんざりだという人もいるだろう。しかしチェンジは可能だ。……アフガニスタンへの貢献が要求されたらどうしよう。世界はどきどき、日本はびくびく。(毎日新聞 09, 1, 11 余録)

訳：人们已经厌倦了冷笑政治，但变化是可能的。……如果要求我们对阿富汗作贡献怎么办。世界在战兢，日本在发抖。

「うんざり、どきどき、びくびく」いずれも心情を表す擬態語で、中国語にもこれにぴったりする表現が豊富にある。「烦透了」はあることに飽き飽きした心情を表す言葉で、「うんざり」の適訳だと思うが、「烦透了」は口語、会話に使われるもので、ここで使うと文体との不一致が生じる。

そして、「どきどき」は韻律的にも「战战兢兢」という形に訳したほうが適切だと思われる。しかし、全文からして「世界はどきどき」、「日本はびくびく」、二つの文の後ろにいずれも「している」を省略されているのが分かる。だが、中国語文にする時、それが省略できない。その上、「战战兢兢」は形容動詞で状況語に使えるが、動詞として使われる時は「战兢」の形を取る。

「びくびく」は「どきどき」の類語であるが、「どきどき」は心臓の激しい動悸なら、「びくびく」は内心から恐れている様子と理解して差し支えないだろう。したがって、「びくびく」を「害怕」と訳すべきである。しかし、「害怕」は口語的で目的語がついていない場合、進行形（「在害怕」）で使われることはめったにない。前文の「世界在战兢」と語呂を合わせて「日本在发抖」に訳したのである。

11 かつては乳幼児なら疫痢（えきり）やチフスなどで、あっさり死んだ。(毎日新聞 09, 12, 12 「成長神話から脱却を」)

訳：过去婴幼儿要是得了疫病、赤痢、伤寒什么的，很轻易地就死了。

中国語には尊敬語や丁寧表現が少ないことは周知の通りだが、人の死を言う時にいろいろ丁寧な言い回しがある。たとえば、この文では「あっさり」を「一下子」と訳すことができる。が、それは人間を動物扱いするニュアンスがあり、話者の軽率な一面を露呈するしゃべり方に思われかねない。ゆえに、「很轻易地」にしたほうが品のある訳である。

12 厚生労働省の発表によると、(家族による高齢者の虐待) 08年度は1万4000件余り、……新聞の社会面では高齢者虐待に関する記事はほとんど見かけない。それだけに、その発表にどつきりさせられた。(毎日新聞 09, 12, 21 みんなの広場)

訳：从厚生省发表的(数据)得知，家庭成员对老年人的虐待事件08年有1万4千多起。……因为报纸上看不到关于虐待老人的报道，所以被这条消息吓了一跳。(修正訳：所以感到震惊。)

「吓了一跳」，「吃了一惊」は「どつきり」にぴったりする擬態語であるが，そのいずれも口語表現に限られていて，文章用語にはほとんど使わない。それに，隠れていた社会現象の統計数字にびっくりさせられた時は，中国語では受け身文より主述文を用いることが多い。そして，「感到」の目的語には「震惊」がセットで使われる。

翻訳する際，中国語にぴったりし，かつ，そのまま使える擬態語が見つければこれほど楽なことはない。しかし，多くの場合，たとえ中国語にぴったりする擬態語があってもそのまま使えず，原文の伝えようとする感情と雰囲気をよく理解した上，訳語を斟酌する必要がある。

二、擬音語から転じた擬態語の意識

13 国債増発による大盤振る舞い。そしてじゃぶじゃぶの超金融緩和。これを平時の態勢に戻すのが「出口戦略」である。(毎日新聞 09, 12, 20 千波万波「憂うつな時代の出口」)

訳：通过增发国债冒充慨大方。哗啦哗啦地往外借钱的金融缓和政策。以此作为恢复平常状态的“战略出口”。(修正訳：宽松的金融缓和政策。)

「哗啦哗啦」は硬貨がぶつかる音として金がたっぷりある様のたとえに口語表現ではよく使われる。が，上記のような概略性の強い文章に「哗啦哗啦」を使うと，文体の不一致が生じる。この文においては「哗啦哗啦」を「大量」に言い換えることができる。しかし，「金融緩和」は量だけの問題ではなく，ほとんどの場合，審査条件の緩和も伴っているので，「宽松」と訳したほうが真意にせまっていると思う。

14 日曜日のテレビで，また政治家たちが「ガソリン値下げと道路建設」問題をわんわんやっている。(毎日新聞 08, 2, 11 風知草)

訳：星期日的电视上，政治家们又在为“石油降价和道路建设”嗷嗷乱吵。(修正訳：大声争论。)

「わんわん」は犬の鳴き声や子供の泣き声を表現する擬音語で，中国語の「嗷嗷」に当

たる。「嗷嗷」はあくまでも動物の鳴き声や人間のヒステリックな声に使われる擬音語なので、政治論争をしている人に用いられると失敬に当たり、そのまま使うわけにはいかない。この文において、テレビカメラに向かって激しく討論している場面を想像すると、「わんわん」を「大声」と理解しても良いと思う。

15 「政党の合従連衡が続いており、来年あたりは新党がボコボコとできるかもしれない」
—小池元防衛相（毎日新聞 08, 12, 4 「政党離合集散活性化を予想」）

訳：政党間的纵横联合还在继续，也许明年起新党会咕嘟咕嘟地冒出来。（修正訳：不断涌现出来。）

「咕嘟咕嘟」とは水などが盛んにわきでたり泡立ったりする音やそのさまを表わす、擬音にも擬態にも使われ、日本語の「ボコボコ」とほぼ同じ意味を持つ。日本語で「新党がボコボコとできる」とは新党の大量出現をイメージ的に説明しているが、それを「咕嘟咕嘟地冒出来」と訳すと、新党が望ましいものではないと理解されるし、話し手の表現力も問われることになる。「ボコボコ」を「雨后春笋」と訳したらどうであろう。「雨后春笋」とは新しい事物が次々と出現する意味なので、単語の意味だけから考えるなら、それがうまい訳と言えよう。ただし、中国語には「春笋」にたとえられた新しい事物が望ましいものでなければならぬという含みがある。例文の中の「新党の大量の出現」は望ましいことかどうかは、これだけの文章では判断しかねる。もし不明のまま「雨后春笋」と訳したら、訳者の主観が入るものと思われかねない。したがって、客観的に訳すと「不断」になる。

16 南京の貢院は、煉瓦で囲った独房約70から成る細長い建物が約300棟もぎっしり並ぶ広大な施設だ。……善行を積んでいけばすらすらと答案が書けたという。（毎日新聞 10, 1, 16 余録）

訳：南京的贡院很壮观。70多个砖制单间围成的细长建筑鳞次栉比有300多栋。……据说平时行善的话，就能刷刷地写出答案。

屋根が連なるさまをうろこや櫛の歯に譬える熟語があるので、「ぎっしり」は四字熟語「鳞次栉比」と訳す以外ない。「すらすら」は「流暢に」という意味合いも持っているが、それより筆を紙の上に早く走らせる音として理解しているから、擬音語「刷刷地」に訳したわけである。

17 「フーバーブラック」—フーバーの旗とは何だろう。ポケットの中身を裏返して引っ張り出し、ひらひらさせる無一文のサインという。フーバーとは大恐慌への無策が歴史に

刻まれてしまった米大統領の名である。(毎日新聞 09, 1, 6 余録)

訳：“黑色胡佛”中的胡佛的旗帜是什么意思？就是把衣袋翻掏出来，呼啦呼啦地抖动它，表示里面没有一分钱。(赫伯特)胡佛是因在美国大恐慌时拿不出对策而被记载在历史上的美国总统。

「ひらひら=呼啦呼啦」つまり、旗が風になびいているときに立つ音で、この例は16の「すらすら」と同じく、擬音語を擬態語的に使われ、まためったにない中国語の擬音語に訳せる文である。

日本語には「すらすら」のような擬音語にも擬態語にもなっている言葉がたくさんあり、また、擬音語から擬態語に転じる言葉もある。それを中国語に訳すとき、たとえぴったりする擬音語があっても、そのまま使えない場合が多く、意識する手法を取らなければならない。

三、同語異訳

18 麻生太郎首相や自民党は衆院解散の時期をめぐり、ぎくしゃくした関係を修復し、公明党の選挙支援を期待しているはずだ。(毎日新聞 08, 11, 6 発信箱「政策も、政局も」)

訳：麻生太郎首相和自民党就众议院解散时期问题而产生的摩擦 or 矛盾消除了，本该期待着公明党对选举的支援。

19 麻生太郎首相も調整型ではなく、トップダウンが好みようだ。給付金をめぐって、ナンバーツーの副首相格である与謝野馨経済財政担当相との間柄がぎくしゃくしてきた。(毎日新聞 08, 11, 15 近聞遠見「与謝野が言う『大きな判断』」)

訳：麻生太郎首相不是调整型的，似乎喜欢大起大落。围绕着给付金问题，跟相当于副首相的二把手与谢野馨经济财政担当大臣之间发生了矛盾 or 隔阂 or 摩擦。

20 かつて日本と中国は近い国だったのに、現在ではぎくしゃくしていて、遠い国のように感じます。(毎日新聞 余録)

訳：日本和中国曾是近邻(般的关系)，由于近年分歧不断，反而感到是遥远的国度了。

例18, 19, 20の「ぎくしゃく」はいずれも人間関係がうまく行っていないことを表わしていて、中国語の「矛盾、摩擦、隔阂、不和」のいずれかに訳することができる。一般的には個人間のわだかまりではなく、何かの問題に対する意見の不一致による「ぎくしゃく」は「矛盾」か「摩擦」に訳したほうが良い。

しかし、例20の場合はそう簡単に行かない。周知のように、新聞の一面に設けられた「天声人語」や「余録」のような欄目に載っているものは、担当者のその日のそのことについての感想で、短い文章に深い広い内容を含めている。したがって、省略が多く、時には肝心な言葉一つ、二つだけで全体を概括している。読者がその新聞と同じ時間空間に生活しているなら、何を言おうとしているのかがわかっているが、その時間空間にいない人間にとっては難解の場合もある。

例20の「ぎくしゃく」を中国語に訳す前に、あいまいな点をはっきりしておかなければ、いい訳が得られないと思う。第一、「かつて」と「現在」の時間範囲、第二に「近い国だった」の「近い」は距離と関係のどちらを指しているかのことである。この二つの如何により、「ぎくしゃく」の訳がかわるのである。

この短いフレーズに出た「かつて」は、なんとなく遠い昔—「遣隋使」、「遣唐使」が行き来した時代のことを思わせる。それに対して「現在」は二十世紀に入って以来の期間にしても、近年にしても理解できる。しかし、いったいどちらなのかはあいまいである。

そして、「近い」は空間距離より関係のほうを指していると理解している。なぜなら、日中間の空間距離は昔も今も変わっていないからである。したがって、翻訳するにあたって、「近隣」の後ろに「般的関係」を付け加え、「近い」の中身をはっきりさせ、文を整えさせる。

「現在」を二十世紀に入って以来の期間と見ていたら、「ぎくしゃく」は訳しにくくなる。中国人にとって二十世紀の中国史は被害の歴史との認識が強く、互いの摩擦を表す「ぎくしゃく」で表現すれば、被害の責任が中国側にもあると思われ、憤懣が噴出するだろう。よって、「現在」の時代区分をあいまいのままにしておき、「近年」日中間に起きたいろいろなきくしゃくした出来事を想起させるような、「ぎくしゃく」を国家間の認識上の「分歧」と訳す。さらに「ぎくしゃく」に動詞の進行形「している」がつづいていたので、「分歧」の後ろに「不断」を付け加えて、意味上だけではなく、韻律上もバランスの取れた文にしたのである。

21 (指導者は国民を操る力がある) その点、麻生はどうか。「少しあるんじゃないでしょうかね。①ばつさり、はつきりものを言う。……」(毎日新聞 08, 11, 1 近聞遠見「少しあるんじゃないか」)

訳：从统帅国民的能力上看，麻生怎么样呢。“还是有点儿吧。说话①斩钉截铁，不含糊其词。”

22 非正規を正社員よりも安い賃金で働かせ、巨額の収益を上げてきた製造大手が先行きに不安を抱くや、千人単位で②ばつさり切ることが許されるだろうか。(毎日新聞 08, 11,

27 「労働者を使い捨てにするな」

訳：制造业の大企业用比正式工人低的工资雇用临时工，获得了巨额利益，可这些企业一感到经营前景不乐观时，就数以千计地②一刀切地将他们解雇。这种现象能看着不管吗？（or 还能允许这种现象继续下去吗？）

「ばっさり」は擬音、擬態の両方に使われることができる。「①ばっさり」はためらわない物腰で、「②ばっさり」は刃物でものを切るときの音と状態の両方と理解できる。ゆえに、前者を四字熟語の「斩钉截铁」に訳し、後者を「一刀切」という比喩にしたわけである。そして、例21にある「ばっさり」と「はっきり」は態度や話し方に使われたので、意味的に近似している。訳文のバランスを考え、「はっきり」を「不含糊其词」にし、「ばっさり」の補足と強調の役割をしている。

23 道路が立派で救急車がスイスイ走ることができても、医師不足で病院が受け入れ拒否をしたら意味ないんじゃないか。（毎日新聞 08,2,3 「道路は延びれど」）

訳：道路维修得好，救护车可以飞快地行驶，可是医院里因没有医生拒绝接受（病人）的话，不是没有意义吗？

24 ETCとは、料金所でいちいち現金を払わず、クレジット払いでスイスイ通れる仕組みのことだ。（毎日新聞 08,11,3 風知草「なぜETCだけ割引か」）

訳：ETC就是不用每次在（高速公路）的收费处交现金，用信用卡交费（在收费处）畅通无阻的装置。

例23, 24の「スイスイ」はいずれも車が順調に走る様子を説明している。しかし、23の道路が良くて速く走ることのできる様に対して、24はいったん車を止めるべきところをそのまま通過できることを説明しているので、同じ「スイスイ」でも訳が違うわけである。

25 歴史を顧みれば危機のなかでの①とっぎの行動が人類の運命を左右してきた。（毎日新聞 08,12,14 時代の風「人類史 左右する瞬間に」）

訳：回顾历史，在危机关头①一瞬间的行动决定了人类的命运。

26 人の死を知った時に何を思うか。②とっぎに浮かぶこともあれば、しばし沈思して追想の言葉を選ぶこともある。……ここでは、③とっぎに思い浮かんだことを記しておきたい。……田が「じゃあ、大臣、よろしく」と腰を浮かしかけた、その時だ。田中の右手がさつと伸び、田のスーツの内ポケットに札束らしいものを突っ込んだ。早業である。④とっぎにこれはまずい、と思ったが、すでに大臣室のドアがあいて次の陳情客が入りかけていた。

(毎日新聞 09, 11, 29 近聞遠見「田英夫がもたらした『秘話』」)

訳：听到人的死讯时会想到什么。有人会在那②一瞬浮想起什么，也有人会陷入沉思寻找回忆的词语。……在此，我想写下③瞬间想起的事情。……田一边站起身来一边说“那么，大臣请多关照”。田中顺势伸出右手，往田的西装内侧的口袋里塞进了一叠钞票似的东西，动作非常麻利。田④一下子就意识到这可不行，可是下一个请愿的人已经进来了。

「とっさ」は「瞬間」「立刻」「刹那间」「猛然」などの訳があり、「瞬く間」という意味の異なる表現に過ぎない。例25, 26は合わせて4つの「とっさ」があり、①-③は「瞬間」と訳して結構だが、④は「瞬間」で片づけられない。その前の文「さっと」を「田の立ちあがる勢いのに、握手するような動きのついでに」なので「顺势」と訳したが、その動きにあわせて、④を「一下子就」にして、反応の速さを説明する。もし④を「瞬間」と訳すと、「その時だけだめだと思い、その後は平気になった」と読み取れる可能性がある。さらに「瞬間」「一瞬」「一瞬間」には特に使い分けがないが、指示代名詞「这」「那」の後ろには「一瞬」がつくのは普通である。

27 大久保利通という人は、現れただけで、その場が①シーンと静まったという。

……不用意な質問はピシャリとはねつけられる。

……さて、誰が登場しても一向に②シーンとならないのが今の国会だ。……議場はザワザワしたままで、威風、辺りを払うという感じが全然ない。

……小沢は革命児のオーラを放ち、周囲を③シーンとさせる力があつた。

麻生は大久保の孫の孫だが、失策と失言が重なり、周囲は④シーンとするどころか、騒然としている。(毎日新聞 08, 12, 1 風知草「シーンとさせる力」)

訳：据说大久保利通这个人只要一出现，全场立即①鸦雀无声。……准备不充分的提问会被他正言厉色地驳回。

……可是当今的国会，那位重要人物登场后议会堂里仍然乱哄哄的，②安静不下来，没有一点儿镇住四周的威风。

小泽浑身散发着革命家的魅力，有一种让周围③信服的力量。(or有③威慑四周的力量。)

麻生虽是大久保的孙子的孙子，可他不断地失策、失言，别说让周围④听他的了，嘈杂都止不住。

日本語のオノマトペを中国語の四字熟語に訳す場合が多い。「①シーン」が「鸦雀无声」になり、「ピシャリ」が「正言厉色」になったのはその典型例と言える。「①シーン」を「鸦雀无声」に、「②シーン」を「安静」にしたのは「シーン」本来の意味に基づいた訳である。しかし、「③シーン」と「④シーン」はそう簡単には行かず、文脈全体の意味を読み、意

日本語オノマトペの中国語訳の類型

訳をしなければならない。「③シーン」の「静かにさせる力」を「信服」あるいは「威懾」に変えたのである。「④シーン」の後ろに「騒然としている」があるから、なお工夫が必要である。「别说安静，依然吵嚷」という直訳は絶対使えない。ここで「安静」を「聞いてもらえるどころか」に訳せば、「騒然」さえも止められない、との無能ぶりを書いた著者本来の意図が表現できる訳となる。

28 田中は大国の首脳と対等に渡り合い、①ズケズケものを言った戦後はじめての首相として記憶されるべきだ。……②ズケズケ外交がいつも通用するはずはないが、言うべきことを言わないのでは話にならない。(毎日新聞 08,5,10 近聞遠見「言うべきことを言ったか」)

訳：应该记住田中是战后第一个跟大国首脑对等地①毫无忌讳地论战的人。②直言外交并不是什么时候都能通用的，但是该说的不说什么问题也解决不了。

この文においては、二つの「ズケズケ」を同じように訳しても構わない。ただ、日本を代表して大国と対等に話す精神的強さを表すには「毫无忌讳」が適切だと思い、そして「ズケズケ外交」を外交専門用語らしく訳すには「直言」にしたほうがスマートである。

29 指定された海岸からは①ぱったりにしんの姿が消えてしまった。…こちらの何が嫌われたか1954年を最後に②ぱったり群れがとだえた。(毎日新聞)

訳：鲐鱼从指定海岸①一下子 or 突然消失了。不知人类作了什么得罪它们的事，1954年以后②就再也没有看到过它们的踪影。

二つの「ぱったり」はまったく同じ使い方で、「突然」か「一下子」に訳すことができる。しかし、「②ぱったり」の前に「1954年」という遠い年代を示す時間状況語があるため、瞬間をあらわす「突然」と「一下子」には合わない。「1954年以后一下子 or 突然消失得无影无踪了」に訳しても通じるようだが、それより、副詞「就」を用いて「就再也没有看到过……」のほうが文法的にも意味的にも合っている。

30 「安部（晋三）が総理になると、安部のまわりにワーツと集まる。福田（康夫）だとなれば、ワーツと福田。今度は麻生（太郎）だとなり、麻生の分が悪くなればサーツと引く。同じ議員が①コロコロ変わる。つくづくいやになったというのが正直な気持ちですね」(毎日新聞 08,12,22 風知草)

訳：“安部（晋三）当了总理，人们忽地 or 呼啦一下涌到他那里。福田（康夫）当了总理，又忽地 or 呼啦一下涌向福田。这次麻生当了总理，看他 不占优势就忽地 or 呼啦一下散去。同一个议员这么转来转去，说实在的真看不惯。”

31 小沢氏は切り返した。「2年半で3人も首相が②コロコロ代わって選挙をしない例はあまり聞いたことがない。」(毎日新聞 08,12,4 発信箱「ああ、議員内閣制」)

訳：小沢反駁道“两年半走马灯似地换了三个首相，却不进行选举，这是史无前例的。”

「ワーッと」、「ザーッと」には「突然」の意味合いを持っているから、両方とも「忽地」と訳すことができる。この文における人が声を上げながら短時間に集まり、または解散していく雰囲気表現しようとするならば、擬音語「呼啦」に「一下」を合わせた「呼啦一下」を使うと良い。

「①コロコロ」は同じ人間が態度を絶えず変えていることを言っているのだから、繰り返しや不安定をあらわす「一來一去」の形を取る。「②コロコロ」は、二年半のうち首相が三人も代わった異常ぶりを言うとき、中国語ではよく「走马灯」に譬えられる。

「同語異訳」、すなわち、一つの擬態語に幾通りもの中国語訳ができるという現象は日本語特有のもので、文脈または語尾につく成分により形容詞になったり、形容動詞になったり、さらに動詞や動詞の使役形になったりする変化に富んだ特性は中国語にはない。例27にあった四つの「シーン」はそれぞれ「鴉雀无声」「安静不下来」「信服」「听他」という類似性のない言葉に訳された。中国語は基本的に「一語一意」なので、擬態語はとくに使用範囲が狭い。四つの「シーン」をそういうふうに訳さなければ、中国人は文章の意味が分からない。日本人の場合、何の説明もいらずに誰でも四つの「シーン」の中味の違いが読み取れる。日本人は擬態語を会得する力を持っていて、その力はつまり生活の中で培われた感覚だと考えて良からう。

四、異語同（類語）訳

32 遅まきながら参院事務局取材して印象に残ったのは「誤読する議員は他にもいますが、麻生総理は極めて多いです」と記録部の担当者のきっぱりした口調だった。……沈みかけた自民党の救世主と見えた漫画好きの論客は、漢字が読めないオッチョコチョイ。(毎日新聞 08,11,24 風知草「人の上に立つ者は……」)

訳：話说的有些晚了，去采访参院事務局后留在印象里的是“虽说也有念错别字的议员，但像麻生总理念错这么多的很少见”纪录部担当说这话时干脆的语气。拯救每况愈下的自民党的救世主竟是一个喜欢看漫画，不认汉字的不稳重的人。

33 辞表提出の日、藤井と電話で話した。サバサバした口調である。(毎日新聞 10,1,9 近聞遠見「『お守り疲れ』という説も」)

訳：藤井提出辞呈那天，我跟他通过电话，语气很爽快 or 干脆。

34 「頭の切れるスタッフとしては最高だけれども，リーダーとしてはどうかな…」と啓子はぎっくばらんな批評をした。(毎日新聞 09, 12, 27 近聞遠見「鳩山短命説は早すぎる」)

訳：啓子直率地说“他的才作为（班子）成员是再好不过了，可是当领导就有点……”

35 びしっと核心を突く物言いで定評のある塩川正十郎元財務相が先日，経済人の勉強会の席で，こう訴えた。(毎日新聞 08, 4, 5 近聞遠見「塩じいの喝，『団塊がやれ』」)

訳：盐川正十郎说话能够正中要害是公认的，前些时他在经济界的学习会上这样呼吁。

例31-34に出てきた「きっぱり」，「サバサバ」，「ぎっくばらん」，「びしっと」のいずれも話すときの感情，様子を修飾している。辞書には「きっぱり」が「斩釘截鉄」になっているが，それは「拒否」や「断る」際の態度を修飾する言葉で，記録員の「たくさん考える必要のない」様子には使わない。「さばさば」には「爽朗」「干脆」「痛快」の意味がある。具体的に何か決定的な発言をする際に「干脆」，「痛快」を使う。「爽朗」は気持ちや声がさわやかである様なので，例32には藤井氏の言葉がなく，あくまでも話したときの口調と心情であるため「爽快」を選んだわけである。「ぎっくばらん」は「爽快」，「直率」，「坦率」と訳することができるが，例33では啓子さんが遠まわしではなく批評していることを説明するには「直率地」と訳すしかない。「びしっと」は非常に強い調子で物事をするさまで，「严厉」，「不留情」と辞書には説明している。けれども，「核心を突く」が続いているから，接続的にはどちらも使えない。「正中要害」という熟語を用いて「びしっと核心を突く」を訳したのだが，「中」は「当たる」意味で，「びしっと」の訳が「正（真中）」に凝縮した。「きっぱり」，「サバサバ」，「ぎっくばらん」，「びしっと」という四つの擬態語を中国語に訳すとき，辞書を見ている限り，共通点があり，同じ言葉に訳す可能性がかなり高い。しかし，原文の中に戻してみると，それぞれが意味的にずいぶん違いがあるから，その場の雰囲気に合わせて言葉を選ばなければならない。

36 「安部（晋三）が総理になると，安部のまわりにワーツと集まる。福田（康夫）だとなれば，ワーツと福田。今度は麻生（太郎）だとなり，麻生の分が悪くなればサーツと引く。同じ議員がコロコロ変わる。つくづくいやになったというのが正直な気持ちですね」（毎日新聞 08, 12, 22 風知草）

訳：“安部（晋三）当了总理，人们忽地 or 呼啦一下涌到他那里。福田（康夫）当了总理，又忽地 or 呼啦一下涌向福田。这次麻生当了总理，看他一不占优势就忽地 or 呼啦一下散去。同一个议员这么转来转去，说实在的真看不惯。”

「ワーッと」と「サーッと」は方向性のある擬態語で、前者は集まってくる、寄ってくる様で、後者はその反対で離れていく動きに使われる。中国語に訳すときは、速さだけを考え、方向性を無視することができる。したがって、この文においては「ワーッと」と「サーッと」は同じ訳になるわけである。

「異語同（類語）訳」できることから日本語擬態語の状態描写の細かさが伺える。話す際の口調、心情、態度を表現するのにそれぞれ異なる擬態語を用いられ、相手にそのときの雰囲気まで伝わっている。ところが、中国語訳には意味が伝わっているものの、決して日本語の擬態語で表現された雰囲気が伝えられたとは思わない。

五、四字熟語に

37 「もともとウイグル族とじっくりこない。事件が起こり、怖くてとても一緒に働けない」（毎日新聞）

訳：“本来就跟维吾尔族格格不入，事件后更感到可怕，不敢跟他们一起工作。”

38 国民側から見ると、風通しが悪く、政界もいろいろが目立ちだした。（毎日新聞 09, 10, 24 近聞遠見「なぜ禁止ばやりなのか」）

訳：从国民的角度看，透明度差，政界也明显地焦躁不安起来。

39 「そんなことできるわけがない」と党執行部がおたおたしたのを今も思い出す。（毎日新聞）

訳：现在仍能想起当时党执行部说“那是不可能的”时惊慌失措的样子。

40 6年制化は、医師なみに6年かけてじっくり育てることで「教員の質」の向上につながるのが狙いだ。（毎日新聞）

訳：六年制化，就是为了象培养医师那样用六年时间扎扎实实地培养教师，以此提高“教员质量”。

41 「たらたら飲んで、食べて、何もしない人（患者）の分の金（医療費）を何で私が払うんだ」（麻生首相の問題発言の一つ）

訳：“毫无节制地喝呀、吃呀的、什么都不干，这种人（患者）的分（医疗费）凭什么让我负担呢”（麻生首相的发言）

42 (指導者は国民を操る力がある) その点、麻生はどうか。「少しあるんじゃないでしょうかね。ぱつきり、はつきりものを言う。……(毎日新聞 08, 11, 1 近聞遠見「少しあるんじゃないか」)

訳：从统帅国民的能力上看，麻生怎么样呢。“还是有点儿吧。说话斩钉截铁，不含糊其词。”

漢字四文字からできた四字熟語は故事や典故から来るものが多く、状態や雰囲気を感じて表わすオノマトペと違い、文語的で奥深いイメージがある。だが、実際にオノマトペを中国語に翻訳する際、四字熟語に訳される場合がかなり多い。状態的感覚的なイメージのオノマトペを奥深いイメージの四字熟語に訳される理由として、四字熟語の文字数に比べ情報量が多いという特徴にあり、その上、四字熟語には比喩が多く、イメージしやすい点がオノマトペに通じていると思われる。

例41「斩钉截铁」は釘や鉄を切断できるようなきっぱりした力強い様子で断固とした態度の比喩に使われる。「含糊其词」の「含糊」は口の中でもごもごしている様で、わざと言葉をあいまいにし、白黒をはっきりしない喋り方のたとえである。例37「焦躁不安」の「焦」は焦っていること、「躁」はいらいらする様で、両方合わせると「不安」に行き着く。例38「惊慌失措」の「惊慌」はうろたえることで、「失措」は常態を失い、どうすれば良いかわからなくなった状態である。例40「たらたら」は「不停地」とも訳することができるが、文脈から見て単なる「絶え間ない」ではなく、不節制な生活ぶりを批判している意味合いがあるから、「毫无节制」という熟語に訳したわけである。

つまり、四字熟語の多くは「のよう」という比喩が含まれているため、簡潔に状態を表現するには適している。ただし、翻訳に当たって、意味が通じたとしても、日本語オノマトペに特有の、目の前に浮かぶような生き生きとした感じが訳語に出てこないのにもどかしさを感じる。

六、文脈から意識

43 「どっちでもいいじゃねえか」— 基礎年金の国庫負担割合を2分の1に引き上げる時期をめぐるガタガタする政府、与野党幹部の表情を見て、彼らの口からこんなフレーズが聞こえてくるような気がした。(毎日新聞 08, 12, 17 つむじ風「歴史も学んで」)

訳：「随便什么时候都行吧」— 关于把基础年金の国庫負担比例提升为2分之1的时间问题，只要看看不协调的政府、执政党及野党干部们的表情，就觉得他们要说这句话。

「ガタガタ」は「組織、人などの調子が悪い状態になる様子を表わす」と言っても、組織

がどういった方向、どの程度悪くなっているのか、筆者、また筆者と同時期及び同じ立場の人でしか分からないので、あいまいで訳しにくい文の一つである。日中辞典にある「动荡不安」をそのまま使うと「激動で不穏になった政府」となるが、大げさだろう。ここで考えられるのは「ガタガタ」を省略して訳さないか、「不協調」とあいまいに訳すかの二つである。

44 (米国の) 民主党といえば、「バラマキ」だったが、彼(クリントン)はグッと自制して財政赤字の削減に努めた。(毎日新聞)

訳: 说到(美国的) 民主党, 都知道他们“到处散财”, 但是, 克林顿努力克制自己, 尽力消减财政赤字。

「ぐっと」は力を入れている様で、「使劲儿地」に訳するのが本来の意味にもっとも近い。しかし、「使劲儿地」は口語表現なので、この文脈に持ち込むと、ぎこちない文章になる。「努力」と訳せば、意識と行動の両方に適用できるから無難である。

45 インタネット上のアンケートなど客観性がないと笑うのは簡単だが、いくらたたかれても田母神コールが沸き起こるのが現実だ。このモヤモヤを払うためには、何が誤りでどこは擁護されるべきかを明確にしなければならない。(毎日新聞 08, 11, 17 風知草『田母神支持58%』考)

訳: 指责因特网上的民意调查缺少客观性很容易, 可事实上, 不管你怎么批, 拥护田母神的呼声仍然很高。要解开这个疙瘩, 应该弄清楚(他)什么地方错了, 什么地方应该拥护。

名詞として使われる「モヤモヤ」は、「混乱」「疙瘩」「隔阂」に訳することができる。「疙瘩」と「隔阂」は意味が近く、「混乱」は状況が違う。この三つの名詞を目的語とする時に使える動詞は「解开(疙瘩)」「消除(隔阂)」「澄清(混乱)」がある。どれを使えば良いか、文章全体の意味から「解开疙瘩」が適切と考えられる。

46 50兆円だろう60兆円だろうと、市場はぺろりとのみ込んで、長期金利の上昇はごくわずかだろう。(毎日新聞 10, 1, 24 千波万波「国債をもっと出せ?」)

訳: 不管是50兆日元, 还是60兆日元, 市场转眼就把它吞掉了, 所以长期利息的增长幅度不会很大。

「ぺろり」はすばやく食いつくす様子で、「很快吃光」に訳すはずだが、文の中に他に動詞「飲み込む」があったから「吃」を訳さずに、「ぺろり」という動作の「はやさ」に注目し「一转眼」に訳す。

日本語オノマトペの中国語訳の種類

47 景気刺激策の結果、銀行がどしどしお金を貸している。(毎日新聞 09,12,11 発信箱「バブルがはじけた」)

訳：激活市场的政策导致银行不断地发放贷款。

「どしどし」を「大量」に訳しても意味として通じる。しかし、「どしどし」はある状態が続いている様子なので、「不断地（絶えず）」に訳すことによって、後ろに来る「貸している」という進行形に一致する。

48 外交や経済の面で世界のリーダーたらんとする気持ちはいいだろう。しかし、そろそろのんびり暮らす方法を模索するのも悪くない。つまり、イケイケドンドンの逆。本当のスローライフ。それはそれで勇気が要る。(毎日新聞)

訳：在外交和经济方面争作世界先导的想法没有什么错。但是，摸索悠闲的生活方式也没有什么不好。就是说，不要老是一味往前赶，正相反，要真正的慢节奏生活。那也是需要勇气的。

「行け行けどんどん」は辞書にない造語のようであるが、雰囲気からでも「突っ走る」感じが伝わってくる。このような言葉を訳すとき、全文を理解した上で適当な中国語を練りだすしかないと思う。

49 東アジア共同体は鳩山由紀夫首相の持論でもある。だが、その形はまだ見えない。欧州連合（EU）のような外交や政治も含んだかっちりした機構を目指すのか、経済に限った緩やかな枠組みにとどめるのか。(毎日新聞 10,1,12 余録)

訳：建立东亚共同体是鸠山由纪夫首相的一贯主张，可（至今）还看不到它的雏形。是像欧洲共同体那样的把外交和政治融为一体的严密机构呢，还是仅限于经济的大致框架呢。

「かっちり」と同じ感覚を持つ中国語は「严丝合缝」があり、二つの物体が隙間なくぴったりくっついている様子を言っている。しかし、行政機構の連合体を言う時には使えない。抽象的なことや体制に関しては「严密」や「紧密」のような言葉を使う。

まとめ

紙幅の関係で、ここでは上記の六パターンにとどめさせていただく。たくさんの例文を翻訳したことにより、加訳、減訳、形容詞の連体形、状況語、名詞、省略などのパターンも挙げられる。それらについては別の機会に譲る。

日本語のオノマトペを中国語に訳す研究の先行として、大河内（1979）は中国語の母語話者が日本の小説を中国語に訳す際、オノマトペを次の10種類に分類している。つまり、

a 同じくオノマトペ, b 状語用法の形容詞になるもの, c 副詞になるもの, d 状語用法の同量詞, 数量詞になるもの, e 成語, 比況性連語構造になるもの, f 程度補語になるもの, g 補語の動量詞になるもの, h 説明的な言葉を追加するもの, i 動詞(形容詞)を適当なものに改めるもの, j 訳語にでないもの, と挙げられている。

文学作品に現れたオノマトペを中国語に訳すとき上記の文法的基準が当てはまると思うが、翻訳のテクニックと規則性をまとめる小論は大河内氏の基準と重なる部分もあれば、逸脱(定義的に)する部分もあった。とくに、新聞の社説、論評、コラムなど時事性が強く、抽象的で曖昧に使われる場合が多く、翻訳する際文脈だけではなく、その文章が生まれた社会環境も念頭に入れなければならない。この点は小説など文学作品を訳すのと違うかもしれない。

日本語オノマトペを翻訳する際、辞書の使い方にも注意すべきである。オノマトペの多くは感覚でつかむもので、辞書の訳語はあくまで近似表現で、そのまま鵜呑みして使うと誤解を招きかねない。翻訳の「信(忠実・確実)、達(伝える)、雅(美文)」三原則に従っていけば、辞書の説明を理解した上、適切な言葉を斟酌するのが大事である。この点は日本の中国語学習者にも参考にしてほしい。

参考文献

『擬音擬態語辞典』, 山口仲美, 講談社

『現代擬音語擬態語用法辞典』, 飛田 良文, 浅田 秀子, 東京堂出版, 2002年

『オノマトピア・擬音・擬態語の楽園』, 笥 寿雄・田守育啓, 勁草書房, 1993年